



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年7月16日 第4号(19-57)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

7/11（月）朝礼校長講話

『藤井竜王の成長の秘密』の話

～負けを認め礼を尽くすことが成長を加速する～

今朝は将棋の話から。今年も将棋界の中心は藤井竜王五冠。14歳でプロになってからこの五年間、大活躍が続いています。彼の活躍から学べることを考えましょう。

一つ目。人や勝負事や試合では、勝った時より負けた時に人柄が出ると言われます。藤井竜王の幼少期の負けず嫌いは有名で、将棋で負けると大泣きして将棋盤に噛みついて悔しがったそうです。小二の時、憧れの谷川永世名人に指導対局を受けました。途中劣勢に陥った時、名人から「引き分けにしようか」と提案されると、将棋盤を抱えてギャン泣きしたそうです。師匠の杉本プロが取りなすも効果なく、母親が飛んできてようやく収まったというエピソードがあります。現在も敗勢を悟った時は、ガックリと肩を落としますが、それからが藤井竜王の真骨頂。逆転を狙い、何とか勝機を見出そうとします。それでも敗北を避けられない時、気持ちを整理して「負けました」と言います。声の大きい竜王ですが、投了を伝える時は、潔く、はっきり言います。この負けを認める行為は、誰にとっても辛いものです。敗因をまわりのせいにしてしまえば、気持ちは楽になりますが、成長は停滞します。次の勝負や試合に良い影響はありません。どんなに負けず嫌いでも、あれこれ言い訳せず敗北を認める潔さから、次の努力が始まるのだと思います。



by 燈子

探究と成長の夏
なでたろう

二つ目。藤井竜王の将棋に対する姿勢が最もよく表れているのは、対局後に双方がお辞儀をする時です。竜王はどの対局でも、常に相手よりも深く長く頭を下げます。高さ30センチの将棋盤より低く頭を下げるため、相手は竜王の後頭部どころか背中まで見えます。これは対戦相手への敬意の表われです。この姿勢が「礼を尽くす」ということで、藤井竜王の止まらない成長を支えています。（何でこんな相手に負けた？）という、相手への敬意のない傲慢な態度は、次の成長につながらないのです。

まとめます。藤井竜王は、あるタイトルを獲った記者会見で、感想を聞かれて『探究』と書いた色紙を披露します。「『将棋は難しい（だから楽しい）時間』です。これからも探求心をもって臨みたい」と、一瞬も緩んだ雰囲気はありませんでした。皆さんなら、『将棋』の代わりに『〇〇』は難しい（だから楽しい）時間』に何を入れますか？間もなく夏休みとなります。43日が大宮中の皆さんにとって、『成長』と『探究』の日々になることを、先生方は信じています。終業式まで一週間、緩まず過ごしましょう。😊

授業ぶらっと訪問②③

7月5日（火）③ 2B 音楽 遠藤先生

みなさん「ごきげんよう～」から始まります。導入は歌唱練習。遠藤先生がひとフレーズ、その後生徒がその後のフレーズを声出しします。「校歌」「区歌」に続き、課題曲「変わらないもの」。歌付きの動画に合わせて、少しずつ声が出てアップ終了です。

今日のメインは『野菜の気持ち』。何それ？？最初にチラッと動画を観ます。ステージで4人組が何か一定のリズムを取りながら、色々な言葉を叫んでいます。観衆から笑いが出ます。これは何？？？どうやらバリ島のケチャのようなことをやろうとしているみたい。私も興味が湧いてきます。遠藤先生「今日は完成よ」と宣言。サッと生徒はチームに分かれて練習開始。シイタケ？バナナ？ポンカン？ピーナッツ？キャベツ？役の6人で、ベースの「ピーナッツ…」に乗せて、楽譜のそれぞれのタイミングで「ポンカン！」「バナナ！」とか叫びます。足底を叩いたり、体や腕を揺すってリズムを取りながら、6人で一つの曲を作っています。言葉に強弱をつけるのが難しそうですが、それぞれのチームが曲を表現しようとしています。歌ではなく言葉を使ったリズムアンサンブルの授業です。コロナ禍で歌いづらい時の教材として遠藤先生が取り組ませています。クラスの雰囲気良く、皆とっても楽しそうです。10分間



練習した後、全チーム一緒に通してみます。その後、遠藤先生「皆さん、クレシェンドだけでなくデクレシェンドに気づいていますか？大きく叫んだり、スンとする（音を落とす）とか強弱記号に、もっと注目しよう」と、練習を見ていて気付いたことを解説します。曲の強弱を強く意識するのは、二学期の合唱にも良い効果がありそうです。その後、再度チーム練習に戻ります。皆、一層やる気になっています。狂ったように（？）4チームが声を出して、足を踏んで、腕を振り、肩を揺すって練習に没頭しています。何これ？すごい。一種陶酔感が湧いてきそうです。一見の価値ありです。各チームでタブレットで動画を録って探求できると、更にすごいことになるなと思いました。次回は発表会だそうです。楽しみです。「お店でお客さんに手に取って～とか、収穫される野菜の気持ちとか場面設定すると表現が深まるね」という遠藤先生の言葉で終わりました。

7月1日（金）③ 3A 保体 渡辺先生

この夏、初めての水泳の授業です。生徒は準備体操に入っていました。杉並区は二人（男女1名ずつ）の監視員を置いて、事故対策をしています。今日は快晴。水温は32℃です。まず水に入って1往復歩行。次は軽くジャンプを入れて歩行。水に慣れる動作です。次は水に浮きます。まずうつぶせで。「足が下がる～」という生徒の声に、渡辺先生は「どうしたら足が浮かないか考えて試そう」。次は仰向け。二人一組で腰を支えることで、平らに浮きます。「体の力を抜いて！」と渡辺先生が繰り返し伝えます。三年生の声も弾んできます。次は沈む。渡辺先生がやってみせます。うつ伏せで浮かんだ状態で息を吐きだしていくと段々沈みます。次は二人一組で一人が脚を開いて立って、もう一人がその脚の間を潜っていく。生徒はできるかな？という表情でトライしています。次は水中で



その場で前方回転。更に後方回転。「どうしたら鼻に水が入らないか考えてやろう」と話します。ここまで30分。「あと10分あるから泳ごう」で縦方向に泳ぎに入ります。渡辺先生が泳ぐときの注意点を2つ押さえます。「力を抜く」「鼻から息を吐く」生徒はクロールで泳ぎ始めます。力が抜けていい泳ぎの生徒が多いようです。「途中で脚をついた生徒は、フィンを使って」という指示で、フィンを使う生徒もいます。フィンを使うとスピードが段違いに速い速い。水に乗ります。プールサイドで立ってフィンを着けようとしている生徒に、すかさず「危ないからフィンは水の中で着けよう」という指示が飛びます。途中渡辺先生もフィンを着けて泳いで見せます。プールサイドで見えていても、汗が噴き出してきます。私の近くで、見学の女



子が一人います。日陰でバケツに足入れて、水で冷やしています。よく見ると涙が出ているようです。驚いて「どうしたの」と聞いてみると、「何か皆が楽しそうに泳いでいるので、今日泳げない自分が悲しくなって…」という言葉が。予想していなかったので、キュンとしてしまいました。私「早く泳げるといいね」。集中して8分ほど泳いで時間になり、整理体操をして終了しました。



大宮小、済美小の6年生を招待して、大宮中学校の見学会を実施しました。

5時間目は各学級での授業を見学してもらいました。6時間目は部活動の時間を設定して、小学生には自分の興味のある部活動をそれぞれ自由に見学してもらいました。



小学生は来年進学することになるかもしれない中学校の様子を、熱心に見ていました。大宮中のどのような感想をもったのでしょうか。少し気になりますね。たくさん入学してくれると嬉しいです。

【学びの教室】

令和5年度4月入室募集

特別支援教室の来年度の募集が始まっています。詳細を詳しくお知りになりたいご家庭は、担任までご相談ください。募集は年2回（4、9月入室）です。来年度の4月入室を希望する場合、申し込み書類の締め切りは10月21日（金）です。入室申し込みには心理検査が必要です。済美教育センターを利用する場合、8月19日（金）までですので、早めにご相談ください。

